＜特別寄稿＞

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第81回　スペインカンゾウ

スペインカンゾウはマメ科に属する多年生植物で、根やストロンはウラルカンゾウと共に甘草として薬局方に収載されています。本植物はスペインを含む南ヨーロッパ、アフガニスタン、中央アジア、また、ゴビ砂漠西部の自生も確認していますので極めて広い分布を示しています。

ウラルカンゾウに比べて根は大きく、長楕円形の葉、穂状の花、果実の形状等が異なります。甘草は70%以上の漢方薬に配合され、また、2%以上含まれるグリチルリチンはグリチロンの薬品名で肝炎や抗アレルギー用薬として使用されてきましたが副作用も良く知られています。近年はイソフラボノイドの研究が進み興味ある活性が発見されています。

一方では食品としても重要で醤油、味噌等の甘味料として多量に輸入されています。

本画の作者、年代は不詳です。